



華陵高校チャレンジ目標「ハナマル」の写真

目次

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| ● 8月臨時会について 2 | ● 議員研修会について／職場体験の受入れについて 11 |
| ● 9月定例会について 3 | ● 高校生と議会の懇談会について 12 |
| ● 10月臨時会について 4 | ● 議員報酬額の諮問について／今後の議会予定 |
| ● 一般質問（9月定例会） 5 | ／議会報告・意見交換会の開催について／編集後記 16 |

8月臨時会



令和5年第4回市議会臨時会は、8月10日に開催され、1議案が上程されました。

〈議案第47号〉恋ヶ浜緑地公園芝生広場改修工事請負契約の締結について

公募型プロポーザルにより芝生広場の遊具などの設置工事を契約

〈賛成多数で原案可決〉

恋ヶ浜緑地公園芝生広場の遊具の設置などについて、プロポーザル方式により請負契約を締結する議案が上程され、賛成多数で原案可決となりました。

- ・ 契約金額…約1億7784万円
- ・ 工期…令和6年3月22日まで
- ・ 選定業者…内田工業株式会社

本会議質疑

議員 体験会のアンケートから取り入れたものは。

市 人気の高かったユニバーサルブランコや、遊具の安全領域のラバー舗装、飛び出し防止の工夫などを取り入れている。

議員 遊具ゾーンを駐車場と芝生広場の間に整備するのはなぜか。災害発生時問題はないか。

市 子どもや保護者が安心して遊べるよう、トイレや管理棟、駐車場に近い位置に遊具ゾーンを設置した。災害時も小さい子や障害のある方、高齢者もスムーズに移動ができる配置になっている。

議員 駐車場は約3倍の150台としているが、土日にテニス大会などがあっても十分か。

市 テニス大会などの最大数を想定すると遊具ゾーンを狭めてしまうため、乗り合いなどで台数を減らすようお願いするなど、大会主催者と連携していきたい。

こんな意見が出ました。

〈反対意見〉

田上茂好 今回の工事内容では、遊具ゾーンが多目的広場と芝生ゾーンの間に割り込む形となり、災害発生時の避難活動が制限されかねない。恋ヶ浜緑地公園が広域避難場所としての機能を最大限発揮できる設計に変更すべきである。

渡辺敏之 誰もが使える遊具を設置することには賛成するが、災害発生時の避難活動の支障にならない位置に遊具は設置すべき。設置位置について十分な説明がされていない。

〈賛成意見〉

磯部孝義 改修工事は、インクルーシブや既存の樹木・起伏を活かしみんなで見守る仕組みを整えるといった、整備基本方針の内容に沿ったものと認識している。工事中の安全面の配慮や各種課題の整理と改善の努力が引き続き必要と考える。

堀本浩司 海底都市遊具・海の動物遊具・あそびの島遊具といった下松市の魅力や恋ヶ浜緑地ならではのモチーフをふんだんに用いたオンリーワンな遊具の提案となっている。広域避難場所として利用可能であることから賛成する。

木原愛子 インクルーシブ公園としての整備は放課後デイサービスを利用する子どもたちの外出支援として期待できる。体験会やアンケートを通じて子ども達や保護者の意見が反映された提案となっており評価する。

磯部	永田	中谷	中村	松尾	三浦	村田	森	山根	浅本	近藤	藤井	堀本	柳瀬	田上	渡辺	木原	斉藤	守田	採決の結果
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	賛成○ 反対×
<small>(議長は表決に加わらない)</small>																			





9月定例会



令和5年第5回市議会定例会は、9月6日から9月21日までの16日間の会期で開催されました。主な審議内容について、掲載しています。

9月定例会 上程議案

全会一致で可決された議案		その他の議案	
予算	一般会計補正予算（第4号） <small>◀P4参照</small>	同意	下松市教育委員会の委員の任命について
	国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	選挙	下松市選挙管理委員及び同補充員の選挙について
	介護保険特別会計補正予算（第1号）		
	後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	閉会中の継続審査となった議案 [常任委員会に付託：12月定例会採決予定]	
	水道事業会計補正予算（第1号）	令和4年度 決算認定	水道事業会計決算
	公共下水道事業会計補正予算（第1号）		工業用水道事業会計決算
条例改正	墓地条例の一部を改正する条例		簡易水道事業会計決算
	納骨堂条例の一部を改正する条例		公共下水道事業会計決算
	火災予防条例の一部を改正する条例		
公民館条例の一部を改正する条例 <small>◀P3参照</small>			

改正前
午後5時まで
無料開放
夜間 2,670円

改正後
午後6時30分
まで無料開放
夜間 1,860円

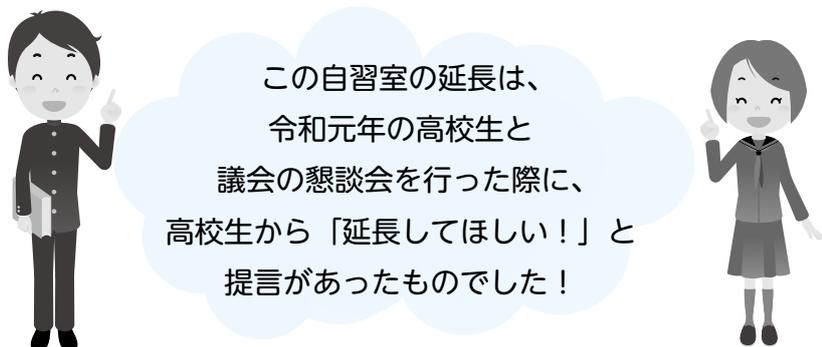
【本会議 質疑】
議員：これまでの学習室の利用状況はどうか。
市：平日は一般の利用者が多く、学生は休日や長期休業中に多い。

議員：無料開放時間が午後6時30分までの延長となるが、もう少し延ばすことはできないか。
市：図書館が午後6時30分に閉館し、それ以降は人の目が少なくなることから、安全面を考慮し午後6時30分までとした。

高校生からの要望が叶いました

下松中央公民館の交流室7及び8について、自主学習室として無料開放する時間の延長を行うとともに、延長に伴う夜間の使用料の見直しの条例改正が上程され、全会一致で原案可決となりました。

〈議案第57号〉下松市公民館条例の一部を改正する条例
下松中央公民館の交流室7・8の無料開放時間を延長へ 〈全会一致で原案可決〉



この自習室の延長は、令和元年の高校生と議会の懇談会を行った際に、高校生から「延長してほしい！」と提言があったものでした！

補正予算
ピックアップ

◎ 公集児童の家3・4・5設計業務 [補正額：1,760万円]

☆場所：現在の公集児童の家1・2に隣接 ☆開所予定：令和7年4月から
☆定員：現在の120名から215名に拡充

≪ 企画総務委員会 質疑 ≫

議員：開所までの間、学校施設などで6年生までの児童受入れはできないか。
市：児童数が多いことから、利用できる空き教室がなく、夏休み期間中だけは特別教室を利用し受入れている。今後も引き続き学校と協議を続ける。

補正予算
ピックアップ

◎ 地域公共交通計画推進業務 [補正額：250万円]

笠戸島地区の公共交通網を検討するため、デマンド型乗合タクシーの実証実験を行う。

☆実施期間：令和6年1月中旬～3月中旬の2か月間 期間中は無休
☆運行形態：笠戸島内はドア・ツー・ドア（家の前まで）方式
市街地の乗降口は4か所限定（駅南口・市役所・中央病院・タウンセンター）
☆利用者：笠戸島住民を主として、笠戸島住民以外（観光客・ビジネス客など）も利用可
☆利用方法：前日9時～15時の間に運行事業者へ電話予約
☆運行ダイヤ：1日片道3便 ☆運賃：地区ごとに設定（島内から市街地へは500～900円）

≪ 企画総務委員会 質疑 ≫

議員：乗合タクシーの実証実験では、便数の増加やどこでも降りることができるようにしてはどうか。

市：既存のバス路線もあるため、バス事業者と競合しないことを前提に運行ダイヤを設定した。また、デマンド型乗合タクシーとして交通の便のいい場所まで運行し、その後は歩いて行ったり、別の公共交通機関に乗り継いだりすることを想定している。

● 公集児童の家3・4・5設計業務
● 笠戸島デマンド型乗合タクシー実証実験
● 民間保育所のおむつ処分整備事業ほか
〈全会一致で原案可決〉



10月4日 臨時会

10月4日臨時会上程議案

その他の議案

同意	下松市監査委員の任命について
----	----------------

閉会中の継続審査となった議案
[常任委員会に付託：12月定例会採決予定]

令和4年度 決算認定	一般会計決算
	国民健康保険特別会計決算
	介護保険特別会計決算
	後期高齢者医療特別会計決算
	国民宿舎特別会計決算

補正予算
ピックアップ

◎ おむつ処分に係る
改修整備等事業
[補正額：1,029万円]

私立保育所など10施設で実施予定
保育所等における使用済おむつの保管
用ゴミ箱購入を支援し、使用済おむつ
を保育所等で処分することで保護者の
負担を軽減する。

≪ 企画総務委員会 質疑 ≫

議員：保育士の処遇改善が課題となっ
ているが、この整備事業で保育
士の負担軽減に繋がるのか。

市：保護者の負担軽減になるだけで
はなく、保育士の負担の面でも、
使用済おむつを間違えることな
く子供本人のバッグに入れて持
ち帰らせる必要がなくなるので、
負担軽減に繋がると考えている。

令和5年9月定例会一般質問

一般質問は、9月12日、13日、14日の3日間で行われ、11人の議員が市政全般にわたる諸問題について質問をしました。

質問日	質問者	質問項目	掲載ページ
9月12日 (火)	きはら 木原 あいこ 愛子	<ol style="list-style-type: none"> 障がい者や高齢者等へのゴミ出し支援について がん患者支援について 令和6年度スタート予定の花岡小学校通級指導教室について コロナ禍で中止となったイベントがある今、今後のシティプロモーションについて 	6ページ
	ほりもと 堀本 ひろし 浩司	<ol style="list-style-type: none"> 国井市政の2期8年間の総括について 温水プールの建て替えについて 旧緑ヶ丘市営住宅の跡地利用について 子ども医療費助成制度の拡充について 	
	たがみ 田上 しげよし 茂好	<ol style="list-style-type: none"> マイナンバーカードを健康保険証（国民健康保険、後期高齢者医療）として使用することについて 小中学校施設の整備について 原発の使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設について 	7ページ
	やまね 山根 えいこ 栄子	<ol style="list-style-type: none"> マイナンバーとマイナンバーカードについて 	
9月13日 (水)	こんどう 近藤 やすお 康夫	<ol style="list-style-type: none"> 老朽化した農業用水路の維持・管理の現状と課題について 市道西条線第2期拡幅改良事業がストップしたのは、なぜか。 老朽化した下松老人福祉会館「玉鶴」の再建を含む今後の運営方針について 市制施行85周年記念事業の準備状況について 「やまぐち大考古博」を終えての天王森古墳の今後の調査と展開（取組）について 	8ページ
	もりた 守田 あやみ 文美	<ol style="list-style-type: none"> 中国ジェイアールバス「光・下松線」廃止に伴う市民への影響について 市内小中学校の給食について 	
	なかむら 中村 たかゆき 隆征	<ol style="list-style-type: none"> 今後の花岡地区及び生野屋地区の住居表示の推進について 異常気象における安全・安心対策について 	9ページ
	やなせ 柳瀬 ひであき 秀明	<ol style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルに向けた取組について 公共施設のユニバーサルデザイントイレの環境整備について 	
9月14日 (木)	わたなべ 渡辺 としゆき 敏之	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの医療費助成の対象を県内の他市町並みに高校卒業まで拡大を 中学校での部活動を地域に移行する取組の現状と今後の方向性について 	10ページ
	あさもと 浅本 てるあき 輝明	<ol style="list-style-type: none"> 市民の安全・安心な暮らしの実現のために 	
	いそべ 磯部 たかよし 孝義	<ol style="list-style-type: none"> 「未来を守る」防災・減災対策の強化について 「未来を造る」豊井まちづくり整備の状況について 	11ページ



木原 愛子

(無所属)

障がいのある人や高齢者等へのゴミ出し支援について

問 近年、高齢化社会の進展に伴い高齢独居世帯が全国的に増加し、高齢化率は本市においても令和4年11月末で米川と笠戸は50%を超え、久保37%、下松33%となっており、今後も増加すると予想される。家庭ゴミを集積所まで運ぶ事が困難な課題は高齢者だけでなく、障がいのある人にとっても課題であり、自宅から集積所までのゴミ出し支援の本市の取り組みについて問う。

答 ゴミ出し支援として65歳以上、または障がいのある人のみで構成される世帯を対象に、有料で大型ゴミの戸別収集を行っている。本年5月から大型不燃ゴミを出す際に、従来の電話やFAXに加えインターネット受付も開始し、手続きし

やすくしている。引き続き行政としての支援の在り方を検討していく。

コロナ禍でイベント中止となった今、今後のシティプロモーションについて

問 本市においては、コロナが流行する前までは祭りやイベント、花火が打ち上げられる行事等が多く行われていた。しかし、コロナ禍以降では「地域イベントはあるが、下松市が大きく盛り上がる行事がない」という市民の声を多く耳にしている。大きな行事を開催し、今後それをシティプロモーションに繋げていくのはどうか。

答 コロナ禍を契機として、イベントは内容の見直しや方針変更等大きな転換期を迎えている。市観光協会をはじめ、民間の知恵や力を借りながら、下松ならではのイベント開催や、市の資源を活用したシティプロモーションに繋げていくことが重要である。今後、感染症による大きな社会変化をチャンスと捉え、イベントを通じ下松へ人を呼び込むための仕掛けづくりを進めていきたい。



堀本 浩司

(公明党)

8項目の政治理念の達成度や市の将来像について

問 市長は政治理念の重点政策を掲げ施策を推進し、早8年を迎えようとしている。未曾有のコロナ感染拡大期間も乗り越え、一貫して市の発展のため取り組んできたと考え、任期満了までの残り半年間で取り組む課題は何と考え、また市の将来像をどのように描いているのか、考えを問う。

答 コロナ対策に追われた中ではあったが、新たな総合計画を策定し、「都市と自然のバランスの取れた住みよき日本一の星ふるまち」の実現を目指して最大限努力してきた。今後の最大の課題は、令和4年末から人口減少に転じたことへの対策と考えており、現在、全庁を挙げて「集中強化プラン」を検討している。先人が築き上げてきた「下松」を確実に将来の世代につなぐためにも、協力をいた

きながら「オール下松」で「住みよきを実現できるまち くだまつ」の実現に引き続き全力で邁進する。

子ども医療費助成制度の拡充について

問 子ども医療費の拡充については、市民からの要望も強く、下松市公明党議員団としてもこれまで何度も要望してきた。近年の物価高騰等もあり、非常に緊張感を持った財政運営をしていると考え、財源確保に着実に努めることで、医療費助成の対象を高校生まで拡大することはできないか。

答 子ども医療費助成制度は、本来は居住地による格差が生じるべきではなく、全国一律に実施されるべきと考え、これまで国に対して全国一律の保障制度の創設を要望してきたところであるが、国の制度として実現するためには、まだ時間を要する状況である。一方で、各自治体独自の制度拡充は進んでおり、県内でも地域間格差が広がっている。こうした状況から、本市では、必要な財源を確保した上で、所得制限は設けず、高校生までの子どもが対象となるよう、令和6年8月を目標に制度を拡充したいと考える。

国井市政の2期8年間の総括について



田上 茂好

(日本共産党)

下松市は予定地からほぼ30km以内

中国電力は上関町に原発の使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設のための調査を申し入れた。上関町長は地元町民への説明もせず、議会側の考えを聞く場を設けたものの、質疑も行われず、申し入れから2週間余りで調査の受け入れを表明した。中国電力は、同町への原発建設を計画しているが、粘り強い反対運動と福島第一原発事故により着工の目途は全く見えていない。この新たな原子力施設が同町内に建設された場合、災害発生時に下松市も大きなリスクを負うことになる。市長には市民への明確なメッセージを発することが求められていると考えるが、いかがか。

上関町において、原子力発電所の使用済み核燃料を一

時的に保管する中間貯蔵施設の立地可能性調査を受け入れる考えを示されたことは承知している。本市としては、引き続き、近隣自治体として、動向を注視していきたい。

現行の保険証は継続すべき

マイナンバーカードをめぐる混乱は深まるばかりであり、他人の公金受取口座の誤登録やマイナ保険証に他人の情報が登録されていたなど多方面でトラブルが発生している。特に、マイナ保険証のトラブルは命に関わる危険があり、絶対にあってはならない。国においては、来年秋には現行の保険証を廃止するとしているが、本市のマイナ保険証行政について今後の見解を問う。

国の法改正により、保険証の廃止後は、マイナンバーカードによるオンライン資格確認を基本とすることが示された。今後の詳細等については示されておらず、本市においては、適切に情報提供を行い、混乱が生じないよう、最大限努めていく。



山根 栄子

(鐵)

マイナンバーとマイナンバーカードについて

令和6年秋より、「紙」の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと健康保険証を一体化する事が決定した。それに先立ち全国で申請手続きが急増したため、人的ミスによるトラブルが多発した。本市において実施された総点検の結果はどうだったのか。また、この事業の問題点、課題はどこにあり、今後この制度は市民へどう影響していくのか問う。



マイナンバーカードは日本の未来を変えられるか

マイナンバーカードの総点検調査で本市のひもづけ状況は適切と判定されている。

マイナンバーカードと健康保険証の一体化により、より多くのデータに基づいた正確な医療を受けることが可能となる。マイナ保険証の「紙」での代替えを希望する人には「資格確認書」が発行されるが、詳細は未確定な部分も多いため、情報提供に努めていく。

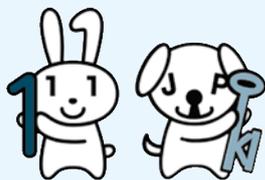
マイナンバーとマイナンバーカードはこれからのデジタル時代の重要な社会基盤であり今後も情報セキュリティを徹底し、安全・安心を確保し、職員の業務の効率化を図り、市民の利便性の向上を目指す。今後は新たに10月からカードを使った新しいオンラインサービスも開始する。

マイナンバー相談窓口

24時間・263日対応

マイナンバー総合フリーダイヤル

0120-95-0178



- 一般質問 木原愛子 堀本浩司 田上茂好 山根栄子 近藤康夫 守田文美 中村隆征 柳瀬秀明 渡辺敏之 浅本輝明 磯部孝義



近藤 康夫

(政友会)

老朽化した農業用水路の維持・管理の現状と課題について

問 近年の雨の降り方は、尋常ではない。生野屋地区において、豪雨の後、3、4日経過しても、斜面から水の流れが止まらないという苦情が寄せられた。久保支線の傷んだ箇所等を、抜本的に改修・修繕する必要性があると考えますが、市の対応はどうか。

答 久保支線や花岡幹線水路など、温見ダムを水源とした農業用水路は、整備から既に60年を超えている。コンクリートの劣化で部分的に漏れなどの不具合が生じている。花岡幹線の改修は、年次計画的に行っている。久保支線は、住宅地に近接しているため、防災上の観点からも早急に現地の漏れ状況や損傷状況等の調査を実施し、補修を行う考えであり、抜本的改修は、調査結果を踏まえた上で検討していきたい。

経年劣化の目立つインフラには万全の注意と安全対策を!



見通しの悪い西条線の写真

市道西条線第2期拡幅改良事業がストップしたのは、なぜか

問 ①用地買収が困難だと判断したのか。

②沿線に残存する岩徳線生野屋駅の記念街路灯の保全修理、または新設の検討状況を問う。

答 ①西条線は万ノ木通りとの交差点より東側の未整備区間の改良に向け、整備計画の検討を重ねてきた。指摘のとおり、用地の確保や、恋路線との接続に伴う踏切部周辺の改良等、様々な課題もあり、早期の事業化は困難と判断した。

②当該街路灯は、駅開業時、地域住民の協力により設置されたものである。全4基のうち、3期は老朽化が著しく、LED灯へ建て替えた。残存する1基の街路灯は、今年度秋に実施する予定の点検結果を踏まえ、修繕もしくはLED灯への建て替えについて検討していく。



守田 文美

(無所属)

令和6年3月のJRバス廃線、公共交通の今後について

問 JRバスが「光・下松線」を廃止すると発表。沿線を廃止すると発表。沿線住民、光高校・附属光小中学校に通う児童生徒への影響は大きい。公共交通をどのように維持していくのか、市長に問う。

答 令和4年末にJRバスから報告を受け、路線維持のため協議を重ねてきたが、このたび廃線が決まった。今後とも路線を維持できるよう、光市と共に対応策を検討していく。



JRバス廃線問題 給食費はあがる!? 給食が少ないという声...

給食費・アレルギー対応・市産食材活用・量が少ないといった諸課題について

問 ①給食費の値上げ予定はあるのか。②アレルギー対応はどうか。③市産食材活用率は公表できないか。④児童から「給食が足りない。餃子が1個しかなかった。」と相談が寄せられた。給食について、国は基準を定めているものの、地域の実情にあわせて弾力的に運用することとなっている。本市は全国と比べて給食の残食量が少なく、給食量が実情にあっていないのではないかと。学校の規模に応じた対応で児童の要望に応えてもらうことはできないのか。

答 ①令和5年度及び令和6年度も現在の給食費を維持する方針である。②全てのアレルギーに対応することは現状困難である。③市産食材活用率公表については検討する。④残食量は全国平均が一人当たり年間7.1kgのところ、本市は令和4年度小学校は1.7kg、中学校は0.3kgだった。給食が足りないという意見は教育委員会まで届いていない。国の基準に従って給食を提供しており、配食量に誤りもなく、量を増やすことは難しいため、クラス内で調整し、補ってほしいと考える。



中村 隆征

(新生クラブ)

花岡地区・生野屋地区の住居表示の推進について

問 今から20年以上前に、まちづくりの二環として、花岡・生野屋全域にわたり住居表示事業を実施するため、当時の花岡地区自治会連合会を中心に「住居表示推進協議会」を立ち上げ、行政と共に事業を進めた。平成14年には生野屋地区を実施し、翌15年には南花岡地区の住居表示を実施したが、旧花岡地区中心部と西花岡地区では、地域住民の一部から根強い反対があり、実施できず現在に至っている。残された地区の住居表示事業を再開していただきたいがどうか。

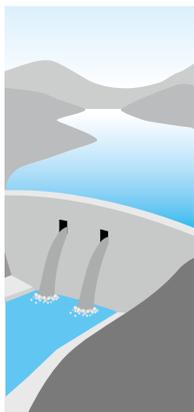
答 該当の地区では、宅地開発等による人口増もあり、住居表示に対する住民意識の変化もみられることから、これまでの経緯に配慮しつつ、理解を得られるように努め、積極的に整備を進めていく。

温見ダムと末武川ダム、二つのダムの管理運営について

問 「過去に類を見ない」「観測史上最大」といった言葉が使われる異常気象となった時代に、一本の河川に二つのダムを持つ下松市の安全・安心対策として、ダムの管理運営について問う。

答 温見ダムは利水ダムとして昭和30年に完成し、現在は市の上下水道局で管理を行っている。末武川ダムは、多目的ダムとして平成3年に完成し、県が管理している。令和2年に関係機関と締結した「末武川水系治水協定」により、大雨が予測される場合には、ダムの事前放流が可能となったことから、温見ダムでは、あらかじめ水位を下げ大雨に備えるといった運用をしている。

引き続き温見ダムの適切な管理を行うとともに、県と連携・協力しながら、末武川流域における安全・安心対策に努めていく。



異常気象における安全・安心対策について

ゼロカーボンシティ宣言を掲げて、脱炭素化先行地域への取組ができないか



柳瀬 秀明

(公明党)

問 「今地球は沸騰化の時代に入った」とも言われ、各自治体もゼロカーボンシティを表明し、脱炭素化先行地域への取組をしている。本市においてもゼロカーボンシティ宣言を掲げ、カーボンニュートラルを戦略的に取組んでいく必要があると考えるが、「第5期下松市地球温暖化対策実行計画」の今後の取組について問う。

答 本市は、新たに「第5期下松市地球温暖化対策実行計画」を策定し、公用車への次世代自動車の導入や、再生可能エネルギーの導入等の推進により、温室効果ガスの排出量を令和12年度までに平成25年度に対し、10%削減を目標に取組む。現段階ではカー

ボンニュートラルを目指した施策研究をしているところである。

公共施設の多目的トイレへのユニバーサルシートへの設置やトイレマップの作成について

問 災害の際の避難所や公共施設の多目的トイレに行つた際に、障がいのある人や高齢者のオムツ交換が出来る台が無く困ったり、外出時に多目的トイレの場所を探すのに苦労したりするといった声を聞く。子どもから大人まで安心して利用できるユニバーサルシートの設置や、お出かけ途中でも多目的トイレの場所がわかるトイレマップの作成ができないか問う。

答 ユニバーサルシートについては、市内の5つの公共施設の多目的トイレに設置している。今後も、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザイントイレの整備を進め、ユニバーサルシートの設置も検討していく。トイレマップについては、ホームページで各施設の多目的トイレの機能などがすぐ分かるよう充実させたい。

カーボンニュートラルに向けた取組について 公共施設のユニバーサルデザイントイレの環境整備について

一般質問

木原愛子

堀本浩司

田上茂好

山根栄子

近藤康夫

守田文美

中村隆征

柳瀬秀明

渡辺敏之

浅本輝明

磯部孝義



渡辺 敏之

(日本共産党)

県内の自治体にならない高校卒業まで医療費無料化を



子ども医療費助成制度について、県内でも、小学生に加え中・高生も医療費無料とする市町が増えている。本市も早期に中・高まで拡充をしなければ、住みよいまちとはいえないのではないか。同僚議員の一般質問で令和6年8月から高校生まで拡充するとの答弁があったが、8月からではなく、早期の4月実施とすべきと思うがどうか。



子ども医療費助成は、本来、国の制度でやるべきことだと考えるが、制度化にはまだ時間がかかる見込みであり、地域間格差の是正と子育て支援の充実が必要と判断した。実施に当たっては期間を要するため来年8月が適当と考えている。

中学校における部活動の地域移行について



教員の長時間労働が全国的な問題となっているが、学校現場の実態はどうか。地域移行は生徒・保護者・市民の納得を得て進めなければならぬと考えるが、そうした取り組みはなされているのか。誰もが納得できる形で具体化すべきである。



中学校教員の超過勤務の実態として、5割以上の教員が月の上限規制である45時間を超えている。その中でも放課後・休日の部活動の指導が大きな部分を占めていると考える。国が示すガイドラインでは、令和5年度から3年間を部活動改革推進期間としており、本市も、地域の実情に応じた持続可能な体制づくりに着手し、地域における指導者の確保など山積する課題を整理しているところである。この部活動の地域移行は、広く影響を及ぼす大改革となることから、多くの方々の意見を踏まえ、適切な情報提供に努める。主役である子どもを第一に考え、部活動が担う教育的意義や役割を、地域移行後も継承・発展できるように丁寧に進めていく必要があると考える。



浅本 輝明

(政友会)

地域防災力の充実強化に向けた取組について



平時から大規模自然災害による被害が発生しないようにし、被害の発生をできる限り小さくするためには、過去の教訓を踏まえ、防災情報の伝達手段の見直しや災害対応の検証結果等を基にするなど、自然災害への「事後対策」ではなく、「事前の対策」が必要と考える。本市の防災・減災に向けた取組について問う。



市民の安全・安心なくらしの実現のためには、地域防災力の充実・強化が不可欠であり、その推進にあたり、消防団や自主防災組織の存在は大変重要なものである。分散備蓄及びローリングストックの推進、災害備蓄品を自主防災組織に配布する制度の創設、防災ラジオの導入や防災メールの登録促進、災害応援協定締結

市民の安全・安心なくらしの実現のために

等による防災体制の構築など、過去の教訓を生かしつつ、改善を重ね、災害に強い環境・体制づくりに努める。

小中学校の災害発生時の対応について



災害が発生した場合の一斉休校等の判断と周知方法は明確に定めているか。また、災害発生時の保護者への緊急連絡の取組について問う。



大雨や台風、地震等の自然災害発生時における休校等の対応について、市内小中学校と基準を共有し、保護者用メールを活用し緊急連絡を行っている。保護者や地域と連携し、児童生徒の安全を守る取組を推進する。





磯部 孝義

(新生クラブ)

「未来を守る」 防災・減災対策の強化

問 ①今年も各地で線状降水帯や台風の影響が発生しており、下松市では7月に深夜の避難情報の発令があったが、避難情報発令のタイミングや河川監視カメラの活用周知の考え方を問う。

②防災ガイドブックや各種ハザードマップが更新され全戸配布されたが、市民の防災意識の醸成につながる取組の推進状況を問う。

答 ①気象台や県から発表される防災情報等を踏まえ、避難すべきタイミングを総合的に判断して避難情報を発令している。また、新たに設置した河川監視カメラはネット端末から鮮明な映像や水位を確認できるため、有効なツールとして活用し、周知啓発に努める。②小中学校での防災教育など防災意識や取組が家族・地域へと世代を超えて波及するよう改善や工夫に努める。

災害に備える：自らの命は自ら守ることを意識した行動を！

「未来を造る」 豊井まちづくり整備の状況

問 ①「豊井まちづくり整備計画」は、地域との話し合い・協議を経て令和2年に策定されたが、状況や課題を問う。②今年の5月に上恋ヶ浜自治会より陳情書が出され、事業の早期立ち上げの思いが示されている。宅地造成がされ若い家族も増え、三世交代交流がにぎやかな地域となっている中で、豊井・恋ヶ浜地区全体を捉えたまちづくり整備の手順、考え方を問う。

答 ①事業の着実な進展に向けて、令和3・4年度と用地測量や取得など事業の前倒しを実施しており、予定を上回る速度で進捗している。②整備を西側から進展していくため、恋ヶ浜地区においてすぐに実感できる事業は難しいが、下水道等を中心としたまちづくり計画を地元とともに進める。

事業の進捗が見える
「豊井まちづくりだより」
から



議員研修会を開催しました！

9月28日(木)に議会におけるタブレットの体験会を開催しました。
議会のICT化による、ペーパーレス化や議案審議への活用方法などを学びました。



議員の声

タブレットは難しいものというイメージがあったが、直感的な操作ができるように工夫がされていることが分かった。

職場体験を受入れました

9月29日(金)に末武中学校の生徒2名が職場体験に来ました。
議場でカメラやマイクの操作、模擬議会の体験をし、最後に議員と意見交換をしました。



～ 中学生の感想は ～

- ・ 議場は緊張したが、いい経験になった。
- ・ マイクやカメラの操作が大変だった。

一般質問

木原愛子

堀本浩司

田上茂好

山根栄子

近藤康夫

守田文美

中村隆征

柳瀬秀明

渡辺敏之

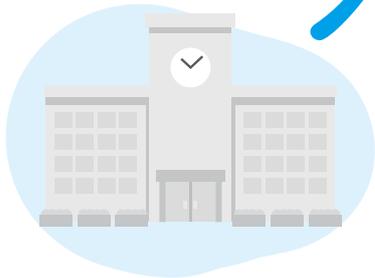
浅本輝明

磯部孝義



夢を語ろう

未来につながる



高校生と議会の
懇談会2023



高校生 × 市議会

市議会では毎年、高校生から提言を受け意見交換を行う「高校生と議会の懇談会」を実施しております。今年も8月9日に開催を予定しておりましたが、台風接近に伴い残念ながら中止の判断とさせていただきます。

直接、提言を聞くことは叶いませんでしたが、事前にいただいた「高校生からの提言」と議員の回答についてご紹介します。

今回は「私(たち)が思うまちづくり」「私(たち)の夢」というテーマでご意見をいただきました。若い人たちにとって、住みよいと思えるまちになるよう、いただいたご意見を大事にしたいと思います。



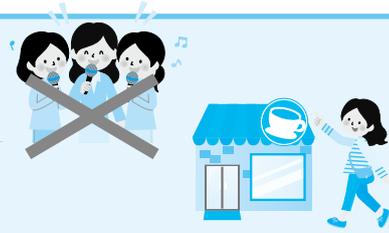
写真は以前開催したときのものです。

下松工業高校の提言



現状・問題点

- 遊ぶところがない



未来

- 遊ぶところを増やす



実現するには…

- レクリエーションを企画する
- 公園や騒いでも大丈夫な場所の建設



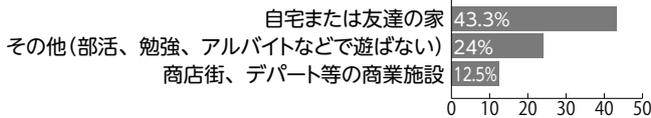
議員から提言への回答

高校生と議会の懇談会を始めて10年近くになりますが、同様の意見要望をたくさんいただきました。正直なところ、これは高校生の生の声を聞かなければ回答しにくい意見要望でもありました。高校生が下松市に望む遊び場所とは『いかなる場所か』企業リサーチ等を調査してみました。

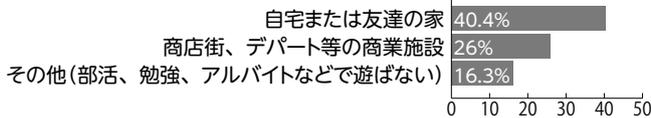
インターネット予備校を運営する「スタディサプリ」社の調査

出典：LINEリサーチ

平日の放課後、どこで遊んでいる？

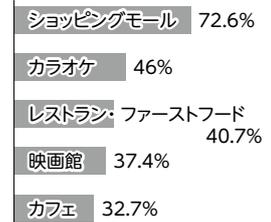


休日、どこで遊んでいる？

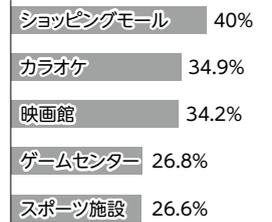


休日によく遊びに出かける所は？

女子高生



男子高生



調査した内容を見ますと、下松市は商業施設や映画館については、近隣の他市と比べ、同等以上に充実しているように思えます。しかし、高校生にとってリーズナブルな価格で過ごせるカラオケ等はほとんどないことから、一日楽しく過ごせるような遊び場を望む声は大いに理解できます。

あくまで民間事業者の経営判断となりますが、高校生の皆さんには、こうした実情を、SNSを活用し広く発信する等、声を上げることが事業者のマーケティングリサーチに好影響を与えるかもしれません。

議会や行政ができることは、そうした事業者が事業展開の判断の一助となるよう、若い方の定住増、人口増を図り、下松市のにぎわいの創出、交流人口の拡大に結びつくまちづくりを進めていくことに注力することがますます重要になると思われます。

以前に比べて、地方都市で若い方が新規でショップやカフェを起業・創業することも珍しくなくなってきています。議会としても若い方が新たに起業できる制度も充実していくよう、今後検討を進めていきたいと思えます。「民間事業者が来てくれるといいな」という願いだけでなく、『自ら起業したい!』という若い力に大いに期待しています。

代表答弁(中谷司朗)

～ 下松工業高校の自慢できる取組 ～

- あいさつ運動
- ゴミ拾いボランティア
- 当たり前向上委員会
- 地域の清掃活動
など



華陵高校の提言



現状・問題点

- 「内からも外からも愛される下松市」をつくることが課題
- 「住宅街と観光地の共存」ができておらず「住みよさ」を生かした観光資源が確保できていない。（「住む街」としての機能は十分にそろっているように感じるが、それが良い面でも悪い面でもあると考える。）



未来

- 出身者が誇れる市であり続けること



実現するには…

- 「わざわざ来たい」と思える観光資源の認知度が低いため、新しい施設を作る必要がある。（下松の魅力「住みよさ」を生かした観光資源）
- 市民の中には新しい施設の建設には否定的な意見もある。→老若男女問わず市民の意見を交え、大々的な構想プランを育んでいく必要がある。（小学校にアンケートを採る、中小企業を招いての座談会を開催するなど）



議員から提言への回答

「愛される下松市」、大事だと思います。

下松市では将来都市像（めざすまちの姿）として「都市と自然のバランスのとれた住みよさ日本一の星ふるまち」を推進テーマとして「くだまつ愛」で未来へつなぐ安全安心なまちを掲げています。

下松市の観光の目玉としては笠戸島、米泉湖、花岡が挙げられます。

笠戸島には、大城、家族旅行村、栽培漁業センター、島の学び舎などの施設があり、それぞれの施設の連携強化や笠戸島ハイツ跡地の有効活用が議会でも取り上げられています。住宅地と観光地との共存の視点では、

昨年「はにわ」が発掘された「天王森古墳」（桜町）をどう観光資源として活用していくのか大きな課題といえますね。

議会では、市民と意見を交える機会として議会報告・意見交換会を公民館で行っています。また、各種団体へ出向く「出前市議会」も行っており、商工会議所や各種団体へ出向き、意見交換をしたりもしています。呼んでいただけましたら、高校へ出前市議会に行くこともできますよ。

大々的な構想プランには市民の皆さんの声がとても大事だと思います。今回のような高校生と議会の懇談会も継続的に実施していきたいと考えておりますので、今後も若い目線でたくさんのご意見をいただければと思います。

代表答弁（磯部孝義）



大刀型埴輪

～ 華陵高校の自慢できる取組 ～

- 国際交流が活発
- チボリ募金
- 留学生の受け入れと短期留学
- 英語科としてのグローバルな視点と地域のお祭りに参加するローカルな視点を兼ね備えた人材育成
- 学校運営委員会で地域や市議を招き意見交換する
- 花岡の全校生徒による美化活動



下松高校の提言



現状・問題点

- 若者が積極的に活動していない、できていない。



未来

- 若者が中心となってまちづくりをリードできる雰囲気をつくる。



実現するには…

- 下松市で開催されているイベントを知る+参加する。
→(コミュニケーションをとって意見を共有し合う)
- 学校に意見箱を置く。
- 総合の時間等を活用し各学校で下松市内の現状を考える。
→意見をまとめて解決策を考える。
- 中高生がイベントやボランティアの企画を考え地域に貢献する。
- 若者が安心して暮らせる下松市にする。
(街灯の設置、下松駅駐輪場の防犯カメラの設置)



議員から提言への回答

中高生がイベントやボランティアの企画を考えて地域に貢献する」素晴らしい考え方だと思います。若い時にボランティアに関わることは非常に大切な事だと思います。イベントやボランティアを議員が紹介することも出来ますし、学生の皆さんが企画してくださったイベントも、地域の皆さんはきっと喜んでくれるはずです。

地域のイベントはたくさんありますが、一番身近な公民館祭りなどに関わりを持ってみてはどうでしょうか。そこで、色々なノウハウを学んだあとに、各種団体を巻き込んで自分たちが主導するイベントを企画してみてください。個人的には4月に行われていた桜祭りの復活を期待します。

街路灯の設置について下松市はまだまだ暗いところがあると思っています。学生の皆さんが通学路等で危険だと感じる箇所があれば教えてください。防犯カメラの設置については防犯対策協議会に議員側からも働きかけてみます。

高齢化が進む中、若い力が必要となってきます。未来の皆さんのためにも、若者が中心となってまちづくりをリードしていけるよう、これからもイベントやボランティアに参加する心をぜひ忘れないでください。

代表答弁(藤井洋)



～ 下松高校の自慢できる取組 ～

- 地域ボランティア
- シトラスリボン
- コンタクトケース回収
- 生徒の意見を聞くポスト設置
- 「シトラスリボンプロジェクト」
- 羽毛回収



議員報酬額の諮問について

9月28日(木)に平成9年以降据え置きとなっている議員報酬額について、下松市特別職報酬等審議会に諮問することを下松市長に依頼しました。



今後の議会の予定

12月 6日(水)…… 本会議(初日)	13日(水)…… 一般質問
11日(月)…… 委員会(付託があるとき)	14日(木)…… 一般質問
12日(火)…… 一般質問	20日(水)…… 本会議(最終日)



※正式な日程は議会運営委員会で決定しますので、変更になる場合があります。

議会報告・意見交換会を開催します！

～ 市議会議員にご意見お聞かせください～



令和5年5月の久保公民館での様子

下松市議会では、議会の役割を知っていただき、議会・議員を身近に感じていただくため、各公民館において『議会報告・意見交換会』を開催しています。

●笠戸島公民館(江の浦)

日時：令和6年1月27日(土) 14時～

●豊井公民館

日時：令和6年1月28日(日) 14時～

華陵高校から表紙写真をいただきました。華陵高校のチャレンジ目標である「ハナマル」です。生徒会執行部の生徒が描いたものが生徒昇降口に掲示されています。

表紙の写真から

市民の皆様とともに様々なことに取り組みたいと考えており、前号から市議会だより表紙写真は市内の高校へお願いをして掲載をさせていただいております。次号もその予定ですので楽しみにお待ちいただくと幸いです。来年も議会に対するご意見・ご要望をお寄せいただき、「開かれた議会」を目指し努めてまいります。

(きはら)

「今年ももうすぐ終わりじゃねえ」という言葉をよく耳にする時期となりました。市議会だより12月号をお読みいただきありがとうございます。皆様にとって令和5年の大きな出来事は何だったでしょうか？下松市議会では4年ぶりに市民の皆様との議会報告・意見交換会を行うことができ、皆様の生の声に触れ、議員一同大変うれしく思っております。

編集後記

